

「道の駅たかねざわ 元気あっぷむら」における子育て世帯の居場所づくり



地域名 高根沢町 22班 コミュニティデザイン 後藤亜希子 宮古花菜 増田展暁
 地域パートナー 高根沢町企画課 建築都市デザイン 大坂純輝 坂本侑樂 小日向由乃
 社会基盤デザイン 佐々木優斗
 グループ指導教員 大森宣暁

地域の背景

高根沢町は宇都宮市の東側に位置しており、人口は約29000人の町である。芳賀高根沢工業団地、特に本田技研工業への就労者が多く在住しているため、20~30歳の人口は比較的多い。

2020年には、町の魅力発信と交流人口・関係人口増加を狙い、「道の駅たかねざわ 元気あっぷむら」をリニューアルオープンした。既存の温泉に、新たにグランピング施設や野外広場等を加え、町外・県外への訴求力アップを図った。現状、土日の来客者数は多く目的は達成できているが、平日は土日と比較し閑散としてしまっている。そのため、**元気あっぷむらにおける平日のにぎわい創出・集客数向上が課題**である。

地域の課題

人口減少、少子高齢化により、まちの活力が減少。20代の流入は多く婚姻率も高いが、**結婚や子育てを機に流出する**人も多く、町の活性化には繋がっていない。

子育て世代の定住促進と、町外への転出抑制を図ることが大きな課題!

プロジェクトの目的

・高根沢町をより子育てしやすい町にする

調査の目的

1st cycle

- ・高根沢町の現状を知る
- ・元気あっぷむらの取り組みを知る
- ・子育て当事者が何を求め、何に困っているのかを知る

調査の方法

- ①元気あっぷむら・鬼怒グリーンパークでの現地調査
- ②子育てサークルMaiMachiへのインタビュー
- ③高根沢町に居住経験を持つ母へのインタビュー

結果

- ①元気あっぷむら
→おむつの自動販売機や授乳室、キッズスペースなどの設備あり
鬼怒グリーンパーク
→アスレチックや自由なスペースが多く未就学児には少し危険。
- ②行政と民間の協力不足に不満。0~2歳児の親子への手厚い支援が重要。



2nd cycle

- ・子育てしやすいまちにはどのような要素があるのか明らかにする
- ・当事者たちが求める子育て世帯の居場所（空間）とはどんなものなのか明らかにする

- ①他地域の取り組み調査
- ②当事者たちへのインタビュー
A 子育てサークルさくらんぼ
B 児童館きのこのもり



- ①他地域の取り組み事例
子育てへの経済的な支援が大胆で、情報が適切に共有されている
- ②A-子育てサークルさくらんぼ
・遊び場のニーズが高かった
・親は子どもから目を離してくつろぐことはできない
親子が安心してすごせる遊び場=子育て世帯の居場所
- ②B-児童館きのこのもり
特に需要が高い遊び場の条件
→天候に左右されない、走り回れる広さ、おもちゃが多い

3rd cycle

- ・元気あっぷむらにおける子育て世帯への取り組み案の効果と実現性を明確にする



- 元気あっぷむらでの再視察・活用案についてのヒアリング
自分たちの仮提案の実現可能性に関する質問
- ・会議室開放して遊び場にする
- ・ボールプール等の常設
- ・SNSで利用状況の周知
- ・鯉の餌やりの再開
- ・森の散歩コースの整備 など...

- ・前向きに検討しているが人件費がかかる
- ・安全面の確保や衛生面への考慮も必要
- ・元気あっぷむら単体だとなかなか形にすることは難しい

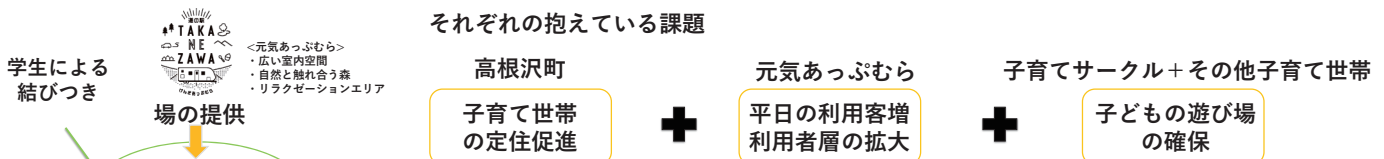
元気あっぷむらと町内の子育てサークルや児童館が連携していくことが理想



調査で訪れた場所

次年度に向けての提案 「町内子育てサークルによる元気あっぷむらでの平日の定期的なイベント開催」

それぞれの抱えている課題



高根沢町役場が持つ地域と密着してきたことによる地域住民との豊富な人脈、元気あっぷむらを持つ整備された施設や豊かな自然、子育てサークルさんが持つ子育て当事者としてイベント開催をしてきたノウハウと的確なニーズの把握能力を私たち学生が間に入って**結びつける**ことにより、それぞれの課題を解決することが出来ると考えた。

〈イベントイメージ〉

- ・折り紙を使って季節のお花を作る工作会
- ・動植物や昆虫に詳しい方をお呼びしての元気あっぷむらの森での外遊び
- ・子育てが終わった高齢者による昔の遊びでのお遊戯会



高根沢町 Takanezawa Town



〈子育てサークル〉 さくらんぼ

それぞれの協働イメージ